様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　２ 年　 ５ 月 １６ 日現在

機関番号：１１３０１
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2016～2019
課題番号：１６Ｋ０３２１３

研究課題名（和文）メキシコにおける多文化主義と先住民の文学的実践

研究課題名（英文）Interculturalism and Literary Practice of Indigenous peoples in Mexico

研究代表者
吉田　栄人（Yoshida, Shigeto）

東北大学・国際文化研究科・准教授

研究者番号：１０２４０２８５

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,400,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、多文化主義の下で先住民の文学的実践はどのように展開したのか、またそれは今後どのように展開しるのか、その可能性についてメキシコのユカタン・マヤの人々の場合を例として検討した。特に後者の点に関しては、先住民文学の作品を実際に日本語に翻訳出版することで、先住民にとって異文化である日本の読者にどのように読んでもらい、その他者による文学作品の読み方が先住民自身の文学的実践にどのような影響を与えるのか、その可能性について検討した。

研究成果の学術的意義や社会的意義
本研究はメキシコにおける多文化主義の中での先住民の文学的実践に関する研究であり、社会的還元の最大の対象はメキシコの先住民である。しかし、本研究ではその副産物として、先住民文学を日本語に翻訳し、日本で出版した。それは日本社会における新たな文学の創造であったと言っても過言ではない。実際、その文化的貢献を評価されて、水声社から出版された拙訳『穢れなき太陽』(ソル・ケー・モオ著、2018年)は、2019年に日本翻訳家協会の日本翻訳文化賞特別翻訳賞をした。

研究成果の概要（英文）：In this research proyect I have analyzed how the literary practice of the Indigenous peoples in Mexico have developed historically, especially under pluriculturalism, and I have discussed also its possibilities in the future. Particularly I have approached it by translating their literature into Japanese and publishing it in Japan so as to see how the indigenous peoples or writers react to the literary critics of the Japanese readers.

研究分野：文化人類学

キーワード：先住民文学　多文化主義　マヤ

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

グローバリゼーションが進む中でのローカルな文化のあり方に与える影響についてはこれまでに多くの研究がなされてきた。ラテンアメリカの先住民社会に関する人類学的な研究は伝統的な文化を征服以前の文化の残存物とみなし、先住民社会が国民国家に統合され近代化するなかでそれがどのように変化するかという、いわゆる文化変容論のパラダイムからスタートした。その後の文化人類学の理論的展開とは裏腹に、ことメキシコにおいては先住民というマイノリティに対する政治的社会的配慮の必要性から、先住民文化が構築主義的に表象されることがあることを公言することは許されず、本質主義的な語りがずっと支配的であった。

1980 年代以降メキシコで社会的政治的な争点となった多文化主義イデオロギーの構築において、先住民文化の本質主義的表象はその基本的前提ですらある。すなわち、本質主義的な形で提示される先住民族（文化）の存在を前提として多文化国家が設計されている。しかも、本質主義的な先住民文化を国家が先住民に構築主義的に実践させるといった奇妙な多文化主義の運用さえ行われる。たとえば、プライマリー・ヘルス・ケアにおいて先住民の文化的伝統としての民間医療の内容を国家が予め想定し、その実践を先住民に求めたり、普及させようとしたりする。今日のメキシコの多文化主義政策の下では官製先住民文化の再領土化が進んでいるとさえ言えるかもしれない。

こうした多文化主義イデオロギーの制度化に先立って、メキシコでは先住民の伝統的な社会文化に関して膨大な量の研究が官民を挙げて行われた。その中で先住民をインフォーマントとして、彼らが語る伝統的な文化の文字化が行われた。先住民による語りが彼らの民族的アイデンティティを規定する重要な指標として用いられたのである。神話や説話などの口承文芸がそうした民族的なアイデンティティを証明する語りの一つとして多数収集され、出版されてきた。そうした口承文芸を通したマヤ語による文学的実践はあくまでマヤの伝統的な文化を表象するための手段と理解されがちである。先住民文学は先住民の伝統的な文化を表象するものでなければならないという暗黙の了解が存在するのである。先住民の言語で何かの文学的創作を行うとする時、先住民の作家たちは何を書けばいいのか。この問いに応えることは彼ら自身にとっての大きな課題であると同時に、グローバリゼーションあるいは多文化主義のまっただ中に置かれた先住民の文化的実践について人類学的に考えるための貴重な経験でもあるだろう。

私はこれまでのユカタン・マヤの社会および文化に関する研究において、フ・メンと呼ばれる伝統治療師（シャーマン）の祈祷文に関する構造的象徴主義的分析を行うと同時に、彼らを民間治療師として国家の医療制度の中に組み込もうとするプライマリー・ヘルス・ケア政策について検討してきた。また、多文化主義というイデオロギーの下で制定された先住民言語権利法が具体的に施行される過程をユカタン・マヤ語の復興という観点から追いかけて来た。さらには、時間は前後するが、マヤという民族ないしは文化が他者によっていかに「消費」されているのか、またそうした「消費」の構造の中でマヤの人たち自身が自らの文化をいかに「生産」しているのかを理論的に考察する研究も行った。これらの研究は光を当てる対象こそ異なるが、上に述べたマヤの人たちがマヤという民族的文化的アイデンティティをどのように表象しようとしているかという問題系で捉え直すことができる。それを可能としたのは、まさに文学というジャンルである。文字化されたマヤ語の口承文芸（祈祷文ならびに説話類）は常に私のマヤ文化に関する分析において不可欠な資料であった。それはマヤ文化を語るためのコーパスであり生き証人であり、さらに言えばインフォーマントの言葉でもあった。だが、先住民文学は過去からの伝統だけを語り続けるのではなく、自らの現在や未来についても語ろうとしている。それは先住民という民族的文化的な縛りとの格闘ですらある。私はマヤ語の復興活動を追いかける中でそうした文学的な実践を垣間見ることができた。しかし、それはまだほんの一端でしかない。次から次へと湧き出る先住民作家たちの文学活動はグローバルとローカルな文化が交錯する場にいかなる先住民の物語を生み出すのか、さらなる追跡が必要である。

２．研究の目的

先住民の「文学」的な実践がメキシコ国家の標榜する多文化主義とどのように接合していくのか、あるいは多文化主義によって「先住民」の文化がどのように作り出されていくのかを、ユカタン・マヤの場合を事例として、その実践の場において捉える。特に、民族的なアイデンティティの源泉であるいわゆる伝統と作家個人の文学的な想像力ないしは語りがどのような関係を切り結ぶのかに焦点を当てる。また、先住民が暮らすローカルな社会内部だけでなくグローバルな領域における先住民文学の「消費」も視野に入れつつ、グローバルな社会とのインタラクションが先住民の「文学」をどのようにオーセンティックなものとして改編することになるのか、そのプロセスを検証する。

３．研究の方法

まず最初に、先住民に関する他者による文学や民族誌などの様々な言説が、多文化主義イデオロギーの広がりの中で先住民自身による自文化の表象によって取って代わっていく経緯を文献資料によって跡づける。特にそうした先住民文化の表象という社会空間にいわゆる文学作品を執筆する作家がどのように登場することになるのかを明らかにする。その上で、先住民言語による文学作品の執筆が多文化主義との関係において持つ意味ないしはその役割についての、作家だけでなく読者となる先住民の人たちも含めた先住民の声をフィールドワークによって拾いつ

つ、多文化主義の下での先住民による文学的実践について考察する。
　次にメキシコに多文化主義イデオロギーが登場する以前、先住民およびその文化はどのように表象されていたのか、その概略を主に文学作品の記述から整理する。ただし、多文化主義「以前」を歴史的に遡れば、際限なく研究対象が広がるので、本研究ではその範囲を国民国家の建設が始まる植民地支配からの独立以降、特に先住民社会の国家への積極的な統合が押し進められることになるメキシコ革命(1920 年)以降とする。また、先住民による文学活動において不可欠の要素である先住民言語の使用がメキシコにおいて社会的承認を獲得するまでの歴史的経緯についても文献資料によって整理する。さらには、多文化主義の実践の一つとして先住民文学のコンクールや出版支援が行われているが、これらがどのような経緯で実施されるようになるのかを文献調査および関係者への聞き取りによって明らかにする。他方で、先住民文学活動に対する先住民自身の声を拾うためのフィールドワークを実施する。先住民の文学活動は、個々の作家による文学作品の執筆行為だけでなく、彼らが行う講演やワークショップ、さらにはマスコミなどに対するインタビューやフェイスブックなどを通じた彼らの日常的な発言なども含まれるため、これらを多角的に追いかける必要がある。
　多文化主義下における文学的実践のグローバルな展開について考えるためには、先住民作家と日本の読者との意見交換は一つのヒントを提供するはずであるので、先住民作家を日本に招聘しその場を設ける。また、日本における先住民文学に関する議論を展開するためには、彼らの文学作品を日本語に翻訳して出版しておくことも必要である。そこで事前に先住民文学の中で主要な作品を翻訳出版し、読者を開拓しておく。

４．研究成果
　研究報告に関しては、日本ラテンアメリカ学会において二度(2017 年、2019 年)の研究報告を行った。また国外では、2018 年にイタリアのベネツィア大学で行われた国際シンポジウム、2019 年にメキシコのキンタナ・ロー大学で行われた国際マヤ学者会議において研究発表を行った。
　さらに先住民文学に関する講演をリベラル・アーツ東北（「先住民文学を読む」2018 年)、日本ラテンアメリカ学会シンポジウム（「ラテンアメリカ研究―地域性と学際性を架橋する経験から導かれるもの」2019 年)、日本国際文化学会シンポジウム（「先住民文学の翻訳を通して見える国際文化学」2019 年）などで行った。
　先住民文学の日本への翻訳紹介に関しては、ソル・ケー・モオの短編小説のアンソロジー『穢れなき太陽』（水声社、2018 年）と『女であるだけで』（国書刊行会、2020 年）を出版した。『穢れなき太陽』は日本翻訳家協会の日本翻訳文化賞特別翻訳賞を受賞した。
　2019 年の 9 月には作家ソル・ケー・モオ氏を日本に招聘し、東京と京都で市民向けの講演会を実施した。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計3件（うち査読付論文　3件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　3件）

１．著者名 吉田栄人	４．巻 26
２．論文標題 現代マヤ文学の誕生―原風景としての伝統的なマヤ村の発見	５．発行年 2018年
３．雑誌名 国際文化研究科論集	６．最初と最後の頁 15-27
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 吉田栄人	４．巻 24
２．論文標題 シュ・タバイ伝説の変容―民俗社会の説話から新しいモードの語りへ	５．発行年 2017年
３．雑誌名 ラテンアメリカ・カリブ研究	６．最初と最後の頁 1-20
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 吉田栄人	４．巻 25
２．論文標題 メキシコにおける先住民文学ルネッサンス	５．発行年 2017年
３．雑誌名 国際文化研究科論集	６．最初と最後の頁 29-40
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

〔学会発表〕　計4件（うち招待講演　0件／うち国際学会　2件）

１．発表者名 Shigeto Yoshida
２．発表標題 Mayab, a Concept of Home of the Yucatecan Mayans in Their Modern Literature.
３．学会等名 [Symposium] Furusato: ‘Home’ At the Nexus of Politics, History, Art, Society, and Self. (University of Venezia, Italy)（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 吉田栄人
２．発表標題 マヤ人女性作家ソル・ケー・モオ作品の文学史的位置づけ
３．学会等名 日本ラテンアメリカ学会第38回定期大会
４．発表年 2017年

１．発表者名 吉田栄人
２．発表標題 メキシコにおける先住民女性作家による女性表象
３．学会等名 日本ラテンアメリカ学会第40回定期大会
４．発表年 2019年

１．発表者名 Shigeto Yoshida
２．発表標題 Una lectura feminista de la literatura indigena
３．学会等名 Congreso Internacional de Mayistas（国際学会）
４．発表年 2019年

〔図書〕　計2件

１．著者名 ソル・ケー・モオ、吉田栄人訳	４．発行年 2018年
２．出版社 水声社	５．総ページ数 248
３．書名 穢れなき太陽	

１．著者名 ソル・ケー・モオ、吉田栄人訳	４．発行年 2020年
２．出版社 国書刊行会	５．総ページ数 250
３．書名 女であるだけで	

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考